

情報メディア学部

情報メディア学部情報メディア学科では、進展する情報化社会の中で必要不可欠な存在となっているICT（情報通信）基盤技術分野、この基盤の上で動作する多種多様なシステムの構築、およびインターネット上で社会が共有すべきデジタルコンテンツの創造と制作に関する分野の専門的な知識と技術を学修します。幅広い分野を体系的に学べるように、メディアデザインとメディアテクノロジーの二つの専攻を設置しています。

メディアデザイン専攻では、映像、動画像、画像、音声などで表現されたデジタルコンテンツを制作するのに必要な知識、手法、技術を習得します。

メディアテクノロジー専攻では、映像、動画像、音声などのデジタルコンテンツを体系的にコンピュータに格納し、それらを必要に応じて高速に検索・加工するための知識と技術、およびこのようなコンテンツをインターネット上で共有するために必要な技術を習得します。

上記の学習目標を実現するために、情報メディア学部のカリキュラムは下記の特徴を備えています。

- (a) 授業科目には、教養科目と専門科目があります。
- (b) 各専攻のカリキュラムはそれぞれの目標を達成するために必要な科目体系で構成されています。学びたい専門領域に対応した履修モデルであるコースを設定しています。コースは、修得した科目に応じて認定されます。
- (c) 4年間を通して、少人数のゼミナール形式科目や講義を配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、個性と能力に応じたスキルアップと研究活動に取り組むことを目指しています。

選択科目が多いため、履修科目に迷うこともあると思います。オリエンテーションやガイダンスなどの説明会には必ず出席して説明を聞いてください。

単位
制度
授業
カリ
キュ
ラム履
修
登
録成
試
験
お
よ
び
績
び
卒業
教
職
課
程留
そ
意
の
事
他
項
の履
修
モ
デ
ル
学
部
教
育
課
程
の
概
要習
履
卒
得
修
業
単
科
目
に
必
要
な
と
な一
授
業
覧
科
表
目一
年
次
配
覧
当
科
表
目

共通教育の概要

1. 共通教育で学ぶこと

共通教育では、みなさんが教養を身に着けるための教育を行います。それでは、教養とはなんのでしょうか。また、北海道情報大学の教養教育は、どのようなもののでしょうか。先に結論を言えば、皆さんが生きていく中で直面する様々な困難な問題を解決していく力のことを教養といいます。少し長くなりますが、説明しましょう。

みなさんは、もう選挙権をもつ社会人です。大学に進学せずに、社会に出る道もありましたが、大学に進学しました。もっと色々な知識を獲得したかったから、社会人として有利な生活を送るために専門知識や技術を学びたかったから、資格を取りたかったから、あるいは、社会に出る前に、もっと自由に過ごす自分の時間をもちたかったから、などなど、理由は様々ですね。いずれにしても、せっかく大学に入ったのだから、少しステップアップして大学教育の意味を考えてみましょう。

みなさんは、卒業後、周りから「大学卒」という目でみられます。そして、「大学卒」のみなさんは、社会を担う役割が大きいと期待されます。古代から続く歴史の流れの延長に、未来という私たちが作り上げていく世界があります。その世界に私たちが望む大事なものは、平和、豊かさ、安全ではないでしょうか。しかし、これらは、それぞれが簡単に両立するものではありません。例えば、自分の国の安全だけを考えると、平和が保てなくなることがあります。平和を優先すると、自分の国の豊かさが保てなくなるかもしれません。また、自分の国だけの豊かさを考えると、平和や安全が保てなくなることがあります。もっと身近なことでは、家庭のことだけを考えると、仕事がうまくいかず、家庭の収入が減り家族関係がうまくいかななくなることがあるかもしれません。家庭も仕事もうまくいくことは一番いいのですが、実際には難しい場合もあるでしょう。このように、社会で生きて行くということは、相反する要求にどのように折り合いをつけるかという問題に答えを求めていくことの連続なのです。平和で豊かで安全な社会をつくる日々の営みは、家庭内の問題、職場での問題、そして社会や政治にかかわる問題に、日常的に取り組んでいくことです。

みなさんは、大学で学んだという実績を持って、セミや蝶が脱皮して新しい生命を生きるように、やがて古い世代に代わって未来の世界をつくる営みに参画していくこととなります。そして、そのための力を大学で養わなければなりません。それはすなわち、みなさんが将来、仕事で活躍するために必要となる基礎的な知識・技術、専門的な知識・技術はもちろんのこと、上で述べたような難問に対して、一つとは限らない答えの中から、一つの答えを自分で見つける力を身につけることなのです。

家庭内の問題、職場での問題、そして社会や政治にかかわる問題、これらは、ユルゲン・ハーバーマスというドイツの哲学者によると、それぞれ親密圏、私有圏、公共圏と呼ぶようです。これまで、みなさんが直面した問題は、おもに親密圏すなわち家庭内の問題ではなかったでしょうか。これは、ある意味で簡単です。難しいと思うかもしれませんが、簡単です。かかわってくるのは、気心が知れた家族ですし、筋道立てて説得しなくても、深い信頼に裏付けられた感情のかかわりで解決することも多いと思います。しかし、難しいのは、社会に出たときです。社会に出ると、一人の人間が、家庭、職場、政治の3つの生活圏にかかわり、それぞれの問題についての解答が、両立したり、三つとも支障なく解決したりすることはないのが普通です。しかも、職場（私有圏）や社会・政治（公共圏）の難問は、一人で答えを見つけ、それを実行に移すのが不可能なことが多いのです。つまり、みなさんは、ほかの人と話し合ったり、協力したり、説得したりする力をつけなければ、社会人として上手に生きて行くことができません。

結論を急ぎましょう。このような難問の答えを見つけるには、系統的に筋道立てて考える力や批判的に考える力、つまりクリティカルシンキングが必要です。また、ほかの人とかがわり、一緒に難問に取り組むためには、コミュニケーション力がとても大事になります。

みなさんがかかわる問題をさらに難しくしていることがあります。それは、情報です。現代は、人類の歴史上、類を見ないほど膨大な情報を個人が手に入れたり、発信したりできる時代になっています。みなさんがかかわる3つの生活圏のすべてに、膨大な情報が押し寄せてきます。みなさんが必要とする価値のある情報は、信頼できない情報を含む膨大な情報の中に埋もれています。その中から、価値のある情報を見出すのは、容易なことではありません。

もう一つ、これまでの歴史にはなかったことがあります。グローバル化の進行です。インターネットにより、現在は紙幣・貨幣という形態から高度に抽象化されたお金が瞬時に国境を超える時代になっていま

単
位
制
度
授
業
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム
履
修
登
録
成
試
験
お
よ
び
卒
業
教
職
課
程
留
意
の
事
他
項
履
修
モ
デ
ル
習
得
単
位
一
授
業
覧
科
表
目
一
年
次
配
当
科
表
目

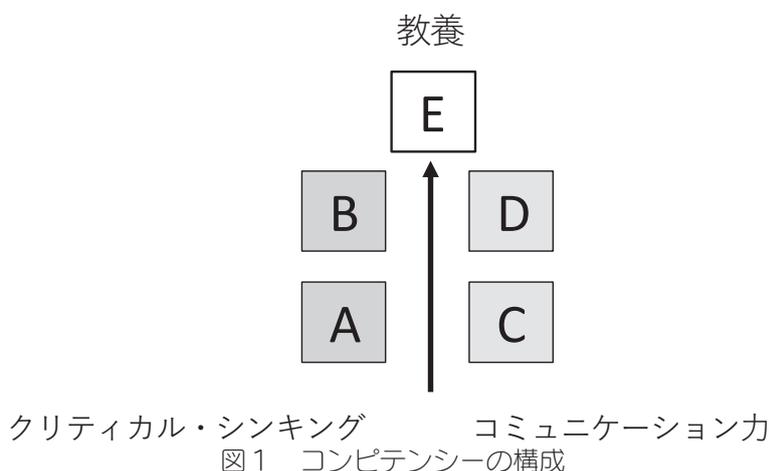
す。また、交通手段の発達により、国境を超える人の移動もかつてないほど容易になりました。世界規模で行われるネットショッピングにより、さまざまな商品が国境を越えて売買されます。現代は、ヒト、モノ、カネが容易に国境を超える知識基盤社会に突入しているのです。みなさんが生活する場でも、海外の人たちが、日常的に活動するようになっていきます。そのようなグローバル社会で生きるには、国際的な視野と感覚も大事になってきます。

2. 共通教育の目的と目標

氾濫する情報とグローバル化の波が押し寄せている3つの生活圏（親密圏，私有圏，公共圏）でさまざまな難問を解決していく力のことを**教養**と呼びます。北海道情報大学の教養教育は、「**情報社会で価値ある情報を見極める能力を高め、国際的な視野と感覚をもった人材の育成**」を目的として、特色ある教養教育を行っています。みなさんが目指す人材像とそのためを獲得してもらいたい能力（コンピテンシー）を表1にまとめました。表2に示すように、この人材像とコンピテンシーは、北海道情報大学のディプロマポリシーと関連付けられています。図1に示すように、コンピテンシーのA，Bは、クリティカルシンキングの養成，C，Dはコミュニケーション力の養成にかかわるものです。これらを目指し，3つの生活圏の難問を解決する力を身につけ、生涯にわたって主体的に学ぶ力を培ってください。

表1 共通教育の人材像とコンピテンシー

①人材像	
(a)	物事を幅広い視野からとらえ，論理的思考力を備えた人材
(b)	情報社会において必要とされる豊かな自己表現力を備えた人材
(c)	異文化を理解し，国際感覚にすぐれた人材
(d)	市民としての倫理観と自覚をもち，社会に貢献できる人材
(e)	学ぶ意義を理解できる人材
②コンピテンシー	
A	学問の方法と論理的思考力を身に付け，問題解決に生かすことができる。
B	得られた情報を批判的に分析し，自己の考えを構築・表現することができる。
C	人類の歴史や文化の多様性を認め，その担い手としての自覚をもつことができる。
D	様々な意見をもつ人々とのコミュニケーションの重要性を自覚し，社会生活への展望をもつことができる。
E	クリティカルシンキング（批判的思考）により，主体的に学びを深めることができる



単位制度授
業カリキュラム履修登録
成試験および
卒業
業
教職課程
留そ
意の
事他
項の
履修モジュール
習履卒業
得修業に
単科必要
位とな
一授
業
覧科
表目
一年次
覧配
覧当
科
表目

表2 共通教育の人材像とコンピテンシー

共通教育の コンピテンシー	北海道情報大学のディプロマポリシー					
	①	②	③	④	⑤	⑥
A						●
B						●
C			●			
D				●		
E	●					

北海道情報大学のディプロマポリシー

- ① 生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力
- ② IT社会に役立つ高度な情報技術と専門知識
- ③ 国際感覚やモラルなど豊かな人間性
- ④ コミュニケーションとプレゼンテーション能力
- ⑤ 自ら問題を見つけ出し、その解決のために情報技術を活用し、自身で工夫できる問題発見・解決能力
- ⑥ 知識のみではなく生きるための知恵

上に述べたように、教養教育の主要な目的の一つは、**価値ある情報を見極める能力を高める**ことです。すなわち、各学科で行う専門科目が情報の知識・技術の修得に深く関連しているのに対して、北海道情報大学の教養教育では、情報の意味を考えることを学修の中心に据えています。そのための主要な科目群が、「情報とクリティカルシンキング」の3つの科目です。また、そのための基礎となる様々な知識や学問の方法を「人間」「自然」「社会」のいくつかの科目で学修します。

教養教育のもう一つの目的は、**国際的な視野と感覚**を身につけることです。英語をはじめとする外国語教育はもとより、「国際コラボレーション」や「海外事情」などの国際交流科目により、海外へ出かけて実践的な場で国際的な視野と感覚を身につける機会を提供しています。

3. 共通教育で学ぶ科目

共通教育で学ぶ科目について、説明しましょう。科目の構成は、上に述べた教養を養成する**人間教育科目**と、大学での学修に必要な基礎を学修する**基礎教育科目**に分けられます（図2）。基礎教育科目は、教養教育だけでなく、専門教育の基礎となる学力を養成する科目です。それぞれの科目は、上に述べたコンピテンシーに関連付けられていて、1年生から3年生までかけて学修します。それぞれの科目の間の関係や科目とコンピテンシーの関連付けは、後のページに掲載した**共通教育科目履修系統図**と**学位認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）**と**科目との関連マップ及びコンピテンシーマップ**にまとめられています。

3-1 基礎教育科目

(1) 教養基礎

大学生として必要な日本語表現力・読解力、基礎的な英語力、数学力、調査・分析・まとめ・発表・討論の基礎などを学修します。これらは、高校の学修を大学の学修にスムーズにつなぐ初年次教育といわれるものです。

(2) 外国語

国際的な視野と感覚を養成するための基礎となる外国語として、英語、中国語、ドイツ語を学びます。

3-2 人間教育科目

(1) 情報とクリティカルシンキング

本学のカリキュラムのコアにある「情報」について、その意味を考えるとともに、知識と技能の基礎・基本を身に付ける科目です。「ヘルスリテラシー」は、日本人と情報、データリテラシー、情報リテラシー、

単位
制度
授
業
カリ
キュ
ラム
履
修
登
録
成
試
験
お
よ
び
績
び
卒
業
業
教
職
課
程
留
意
の
事
他
項
の
履
修
モ
デ
ル
履
修
課
程
の
概
要
卒
業
に
必
要
な
単
位
と
授
業
科
表
目
一
年
次
配
当
科
表
目

メディアリテラシー、高度情報社会と心身の健康の5つの分野を学ぶことで、価値ある情報をどのように見極めるかを学修します。「情報倫理」は、あふれる情報が社会に及ぼす影響とそれによるトラブルへの対策を学修します。「情報の世界」は、デジタル社会における数理・データサイエンス・AIに関する基本的素養を身に付け、さらにその知識と技能について適切に活用することを学修します。

(2) 人間・社会・自然

個としての人を理解するための「人間」、人が集まって生きるための仕組みを理解するための「社会」、そして、ヒトが生きて行くうえでどうしても考えなければならない人を取り巻く自然について理解するための「自然」、これらについて学修する科目を用意しています。これらの科目は、「情報とクリティカルシンキング」の基礎となります。これらの科目を学修することで、価値ある情報を見極める能力を高める能力を高め、物事を幅広い視野からとらえる力と論理的に考える力を獲得する基礎を学修してください。

(3) 総合

「健康とスポーツ」では、主体的に行動する基盤となる体力と、身体の動きを科学的にとらえる視点を獲得します。また、国際交流科目により、異文化を理解し、豊かな国際感覚を身につけます。さらに、キャリア教育により市民としての倫理観と自覚をもち、社会に貢献できる人となるための基礎を学びます。

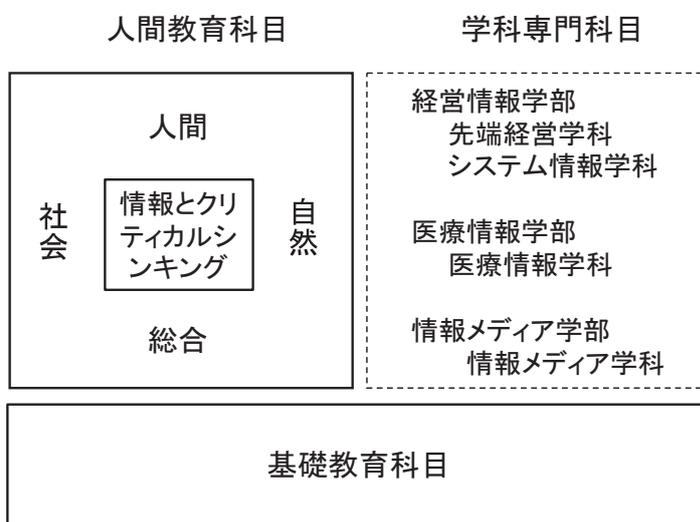


図2 共通教育科目の構成

4. 専門科目の基礎および関連科目

共通教育のいくつかの科目は、各学科で専門科目を学ぶ上で基礎となる科目あるいは関連する科目として位置づけられています。これらについては、あとに掲載されている各学科の説明を参考にしてください。

5. 教職科目

共通教育の科目のいくつかは、教職課程を履修するために必要な科目（教科に関する科目）に指定されています。詳しい説明は、教職課程履修要項を参考にしてください。

単
位
制
度
授

業
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

履
修
登
録

成
試
験
お
よ
び
績
び

卒

業
教
職
課
程

留
そ
意
の
事
他
項
の

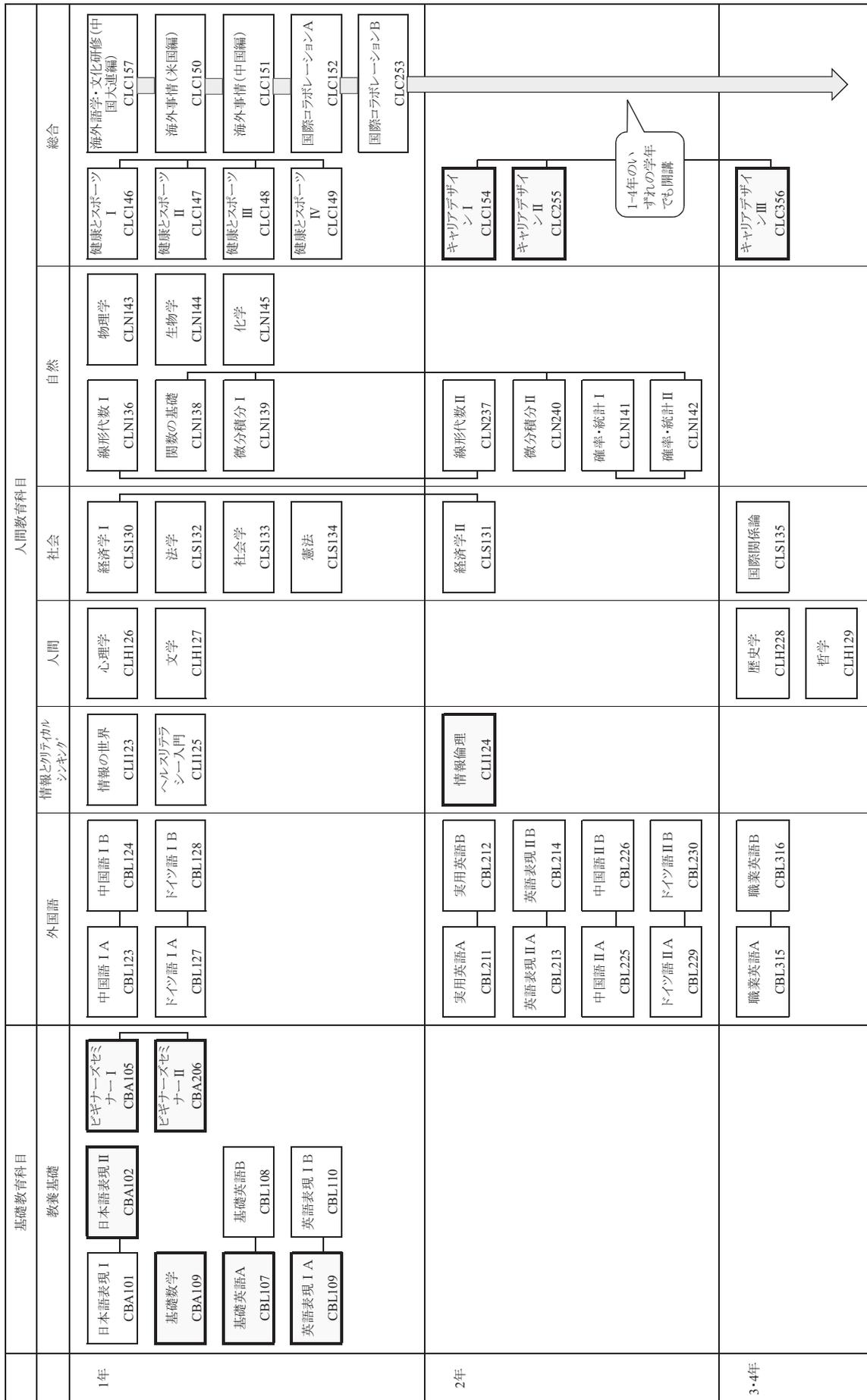
履
修
モ
デ
ル
教
育
課
程
の
概
要

習
履
修
得
単
位
と
な

一
授
業
覧
科
表
目

一
年
次
配
覧
当
科
表
目

共通教育科目履修系統図 (臨床工学専攻を除く)



共通教育科目系統図(臨床工学専攻を除く)

上段は科目名;下段はナンバリング

選択科目

必修科目

単位制度
授業
カリキュラム
履修登録
成績
卒業
教職課程
その他
履修単位
卒業に必要な科目
授業科目表
1年次配当科目表

共通教育科目履修系統図 (臨床工学専攻)

基礎教育科目		人間教育科目					総合		
教養基礎		外国語	情報とリテラシー	人間	社会	自然	総合		
1年	日本語表現 I CBA101 日本語表現 II CBA102 基礎数学 CBA109 ピキナーズセミナー I CBA105 ピキナーズセミナー II CBA206 基礎英語 A CBL107 基礎英語 B CBL108 英語表現 I A CBL109 英語表現 I B CBL110	中国語 I A CBL123 中国語 I B CBL124 ドイツ語 I A CBL127 ドイツ語 I B CBL128	情報の世界 CLI123 ヘルズリテラシー入門 CLI125	心理学 CLH126 文学 CLH127	経済学 I CLS130 法学 CLS132 社会学 CLS133 憲法 CLS134	線形代数 I CLN136 関数の基礎 CLN138 微分積分 I CLN139	物理学 CLN143 生物学 CLN144 化学 CLN145	健康とスポーツ I CLC146 健康とスポーツ II CLC147 健康とスポーツ III CLC148 健康とスポーツ IV CLC149 臨床工学基礎 セミナー I CLC158 臨床工学基礎 セミナー II CLC159	海外語学・文化研修(中国大連編) CLC157 海外事情(米国編) CLC150 海外事情(中国編) CLC151 国際コラボレーションA CBL123 国際コラボレーションB CLC253
2年		実用英語 A CBL211 実用英語 B CBL212 英語表現 II A CBL213 英語表現 II B CBL214 中国語 II A CBL225 中国語 II B CBL226 ドイツ語 II A CBL229 ドイツ語 II B CBL230	情報倫理 CLI124		経済学 II CLS131	線形代数 II CLN237 微分積分 II CLN240 確率・統計 I CLN141 確率・統計 II CLN142	キャリアデザイン I CLC154 キャリアデザイン II CLC255	1-4年のいずれの学年でも開講	
3・4年		職業英語 A CBL315 職業英語 B CBL316		歴史学 CLH228 哲学 CLH129	国際関係論 CLS135		キャリアデザイン III CLC356		

上段は科目名; 下段はナンバリング

選択科目

必修科目

単位制度
授
業
カリキュラム
履修登録
成績
試験および
卒業
業
教職課程
留
意の
事項
の
履修
モジュール
習得
単位
と
一
授
業
科
目
表
目
一
年
次
配
当
科
目
表
目

共通教育科目履修系統図 (臨床工学専攻を除く) 【外国人留学生】

単位制度
授
業
カリキュラム
履修登録
成績および
卒業
業
教職課程
留
意の
事項
履修モデル
卒業に必要な
履修科目と
単位
一
授
業
科
表
目
一
年
次
配
当
科
目
表

共通教育科目系統図(臨床工学専攻を除く) 【外国人留学生】

	人間教育科目					総合		
	基礎教育科目	外国語	情報とメディアカル シンキング	人間	社会	自然	総合	
1年	基礎教育科目 日本語表現 I CBA101 日本語表現 II CBA102 基礎数学 CBA109 ビジネスセミナー I CBA105 ビジネスセミナー II CBA206 基礎英語 A CBL107 基礎英語 B CBL108 英語表現 I A CBL109 英語表現 I B CBL110	日本語 I CBL160 日本語 II CBL161 日本語 III CBL262	情報の世界 CLI123 ヘルスリテラシー入門 CLI125	心理学 CLH126 文学 CLH127	経済学 I CLS130 法学 CLS132 社会学 CLS133 憲法 CLS134	線形代数 I CLN136 関数の基礎 CLN138 微分積分 I CLN139	健康とスポーツ I CLC146 健康とスポーツ II CLC147 健康とスポーツ III CLC148 健康とスポーツ IV CLC149	
2年		日本語 IV CBL263 実用英語 A CBL211 英語表現 II A CBL213 実用英語 B CBL212 英語表現 II B CBL214	情報倫理 CLI124		経済学 II CLS131	線形代数 II CLN237 微分積分 II CLN240 確率・統計 I CLN141 確率・統計 II CLN142	キャリアデザイン I CLC154 キャリアデザイン II CLC255 日本事情 CLC364	
3・4年		職業英語 A CBL315 職業英語 B CBL316		歴史学 CLH228 哲学 CLH129	国際関係論 CLS135		キャリアデザイン III CLC356	

上段は科目名;下段はナンバリング

選択科目

必修科目

共通教育科目履修系統図 (臨床工学専攻) 【外国人留学生】

共通教育科目履修系統図 (臨床工学専攻) 【外国人留学生】		人間教育科目					総合
基礎教育科目		外国語	情報とデジタルシナジー	人間	社会	自然	総合
1年	教養基礎 日本語表現 I CBA101 日本語表現 II CBA102 基礎数学 CBA109 基礎英語 A CBL107 英語表現 I A CBL109 ビギナーズセミナー I CBA105 ビギナーズセミナー II CBA206	日本語 I CBL160 日本語 II CBL161 日本語 III CBL262	情報の世界 CLI123 ヘルスリテラシー入門 CLI125	心理学 CLH126 文学 CLH127	経済学 I CLS130 法学 CLS132 社会学 CLS133 憲法 CLS134	線形代数 I CLN136 関数の基礎 CLN138 微分積分 I CLN139	健康とスポーツ I CLC146 健康とスポーツ II CLC147 健康とスポーツ III CLC148 健康とスポーツ IV CLC149 臨床工学基礎セミナー I CLC158 臨床工学基礎セミナー II CLC158
	日本語表現 I B CBL110 基礎英語 B CBL108	日本語 IV CBL263	情報倫理 CLI124	経済学 II CLS131	線形代数 II CLN237 微分積分 II CLN240 確率・統計 I CLN141 確率・統計 II CLN142	キャリアデザイン I CLC154 キャリアデザイン II CLC255	臨床工学基礎セミナー I CLC158 臨床工学基礎セミナー II CLC158
2年		実用英語 A CBL211 英語表現 II A CBL213 日本語 IV CBL263					キャリアデザイン I CLC154 キャリアデザイン II CLC255
3・4年		職業英語 A CBL315 職業英語 B CBL316		歴史学 CLH228 哲学 CLH129	国際関係論 CLS135		キャリアデザイン III CLC356

上段は科目名; 下段はナンバリング

選択科目

必修科目

単位制度
授
業
カリキュラム
履修登録
成績
試験および
卒業
業
教職課程
留
意の
事項
の
履修
モジュール
習得
単位
と
卒業
に
必要
な
授
業
科目
表
目
一
年
次
配
当
科目
表

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と科目との 関連マップ及びコンピテンシーマップ

単位
制度
授
業
カリ
キュ
ラム
履
修
登
録
成
試
験
お
よ
び
卒
業
教
職
課
程
留
意
の
事
他
項
の
履
修
モ
デ
ル
習
得
単
位
一
授
業
科
表
目
一
年
次
配
当
科
表
目

授 業 科 目 の 名 称					卒業認定・学位授与の方針と科目との関連						コンピテンシー									
					①	②	③	④	⑤	⑥	A	B	C	D	E					
授 業 科 目 の 概 要	基礎 教育 科目	教 養 基 礎	日本語表現Ⅰ				○		○		○									
			日本語表現Ⅱ						○	○										
			基礎数学							○										
			基礎英語A				○	○					○	○						
			基礎英語B				○	○					○	○						
			英語表現ⅠA				○	○					○	○						
			英語表現ⅠB				○	○					○	○						
			ビギナーズセミナーⅠ	○						○	○								○	
			ビギナーズセミナーⅡ	○			○			○	○								○	○
		人 間 教 育 科 目	外 国 語	実用英語A			○	○							○	○				
				実用英語B			○	○								○	○			
				英語表現ⅡA			○	○								○	○			
				英語表現ⅡB			○	○								○	○			
				職業英語A			○	○								○	○			
				職業英語B			○	○								○	○			
	中国語ⅠA					○	○								○	○				
	中国語ⅠB					○	○								○	○				
	中国語ⅡA					○	○								○	○				
	中国語ⅡB					○	○								○	○				
	ドイツ語ⅠA					○	○								○	○				
	ドイツ語ⅠB					○	○								○	○				
	ドイツ語ⅡA					○	○								○	○				
	ドイツ語ⅡB					○	○								○	○				
	人 間 教 育 科 目			情 報 と ク リ テ ィ カ ル シ ン ギ ン グ	情報の世界			○			○	○		○						
			情報倫理		○			○		○			○			○	○			○
			ヘルスリテラシー入門		○			○		○		○		○			○	○		○
			人 間 教 育 科 目	心理学				○			○	○								○
				文学			○				○	○				○	○			
				歴史学			○				○	○				○	○			
				哲学							○	○								
			社 会 教 育 科 目	経済学Ⅰ							○	○		○						
				経済学Ⅱ							○	○		○						
				法学							○	○		○						
				社会学							○	○		○						
				憲法							○	○		○						
	自 然 教 育 科 目		国際関係論			○				○	○				○					
		線形代数Ⅰ							○	○										
		線形代数Ⅱ							○	○										
		関数の基礎							○	○										
		微分積分Ⅰ							○	○										
		微分積分Ⅱ							○	○										
		確率・統計Ⅰ							○	○										
		確率・統計Ⅱ							○	○										
		物理学							○	○		○								
		生物学							○	○										
総 合	健康とスポーツⅠ				○			○	○								○			
	健康とスポーツⅡ				○			○	○								○			
	健康とスポーツⅢ				○			○	○								○			
	健康とスポーツⅣ				○			○	○								○			
	海外語学・文化研修（中国大連編）			○	○								○	○						
	海外事情（米国編）			○	○								○	○						
	海外事情（中国編）			○	○								○	○						
	国際コラボレーションA			○	○								○	○						
	国際コラボレーションB			○	○								○	○						
	キャリアデザインⅠ	○			○			○			○						○			
	キャリアデザインⅡ	○			○			○			○						○			
	キャリアデザインⅢ							○		○										
	臨床工学基礎セミナーⅠ				○			○	○								○			
	臨床工学基礎セミナーⅡ				○			○	○								○			
	留 学 生 向 け 科 目	日本語Ⅰ			○	○								○	○					
日本語Ⅱ				○	○								○	○						
日本語Ⅲ				○	○						○			○						
日本語Ⅳ				○	○						○			○						
日本事情				○	○								○	○						